

プロジェクト報告書
株式会社インサイトハウスやましなさんプロジェクト

●はじめに

株式会社インサイトハウスやましなさんプロジェクトでは、フリーペーパーの作成を目標にインターンシップ活動をした。やましなさんプロジェクトというのは、山科の人々が心豊かに暮らせるように、地域の価値を高める、それが会社の信頼につながるというプロジェクトであり、私たちインターンシップ生に与えられた課題は、地域の価値を高める、ということだ。山科には、ほかの自治体と同じように少子高齢化が進んでいること、交通の便はいいが電車で通り過ぎられてしまうということや、治安面などのマイナスイメージがある。そういったイメージを払拭し、心豊かな暮らしができる場所であるというイメージを発信してほしいというのがインサイトハウスから与えられた課題であった。

こういった発信をするにあたり、私たちが山科がどういうところなのか、やましなさんプロジェクトが山科に対してできることは何なのか、心豊かな暮らしとはどういうことなのか理解することが非常に重要であった。また、これらを理解する前にプロジェクトの目標を設定することは難しかった。よって、私たちは当面の活動を、山科での取材活動、その記録を SNS で発信すること、フリーペーパーの制作に絞り、動き出すことにした。

●取材活動記録

ここからは、山科で行った各取材から明らかになったこと、学んだことをまとめる。

・ 勸修寺公園

少年野球を観戦中のおじいちゃんにお話を聞いてみた。勸修寺公園は、山科区内外からスポーツをしに人が集まるということ、山科は昔に比べてずいぶん便利・にぎやかになったことがわかった。

・ 岩屋神社

神職の方にお話を聞いた。山科にはいくつか神社があり、それぞれの神社ごとにお祭りがあること、地域の方々がお祭りに向けた会議を神社でしていること、おみこしの担ぎ方の反省会をしていることなどがわかった。また、神社には山科地域の住民はもちろん企業も毎年のお参りに来られるため、神職の方は山科地域についてとても詳しいということがわかった。

・ 西岡農園

田畑も多い山科で、農家さんに山科の農業事情を聞いてみた。京野菜に比べてブランド化が難しく、跡継ぎもなかなか見つからないため厳しい現状であることがわかった。しかし、バナナピーマンなど新しい野菜の栽培に挑戦しておられたり、山科の農家さんが集まって飲み会をし、山科野菜について語り合ったりすることもあると教えていただいた。

・ 鉄板焼きカフェ

店長さんにお話を伺った。一度は山科を出て自分のお店を出したが、山科を離れると寂しくて戻ってきてしまったというお話を伺った。外に出てみて初めて、山科にはほかの地域にない温かさがあることに気づいたそう。山科には、このように、一度地元を離れても戻ってくる方が多いそう。

・ こども食堂

山科子ども食堂でメニューを考えていらっしゃる方にお話を聞いた。子ども食堂というのは、もともと子どもの貧困問題解決のために、子どもが安い価格で気軽に食事がとれるよう各地で行われている取り組みである。山科では様々な主体が子ども食堂に取り組んでおられる。子どもも大人も気軽に声を掛け合える地域になれば、安心して暮らせるという思いを語ってくださった。

・企業向けお弁当屋さん

毎朝 6 時から 180 食のお弁当を調理、箱詰めしていらっしゃるお弁当屋さん。大変そうだが、とても楽しそうにお仕事のことを話してくださったのが印象的だった。主婦の腕を地域のために生かせるのがうれしいと話してくださった。

・学習塾

塾の営業は、地域の子育て環境、学校教育の実態に寄り添ったものであり、地域からの目を非常に気にするものであることを教えていただいた。だからこそ塾の先生も地域になじめるように努力していらっしゃるそうだ。全国展開の塾であっても、ひとつひとつの教室は非常にローカルなものであることがわかった。

・PTA 会長

PTA やおやじの会の活動をしておられ、地域行事には欠かさず参加するというお父さんにお話を聞いた。山科には「山科愛」というものが存在すること、PTA など、保護者の皆さんは「山科はひとつ」という思いを持っておられることを教えていただいた。そのような思いをもって活動してこられたのは、子育てするようになってから、地域に支えられて暮らしが成り立っている時間を持つようになったからだそうだ。また、山科の地域行事は大人から子どもまですごい熱量をかけて完成することもわかった。

・山科青少年活動センター

子ども食堂の会場にもなっている山科青少年活動センターに行った。山科にも様々な環境や事情を抱えた家庭があり、ここではそれを地域が一丸となって支えているということを知ることができた。だからこそこのセンターも、子どもたちが気軽に集まれるような工夫がされていた。

・コミュニティカフェ

看護師さん、保育士さんの資格を持っている店長さんが、お客さん同心のつながりを作りたいというおもいで始めたカフェ。山科には団結力や地域の温かさがあるけれど、逆に外から嫁いできたお嫁さんがなじめなかつたりすることもある。実家が遠くて子育ての悩みを一人で抱えているお母さんと、一人暮らしのおばあちゃんがこのカフェで出会って、相談しあえる関係になる、そんな拠点を目指してカフェを経営していらっしゃる。

・バスケットチーム

少年バスケットチームの試合会場で、保護者の皆さんにインタビューを行った。山科には子連れでも入ってゆったりできる飲食店が意外と少ないことや、子育て中は特に車がないと不便であるといった生活の実態を聞くことができた。また、試合や応援の雰囲気から、山科の方の何事にも全力な性格や団結力が感じられた。

・プリンのお店

趣味で始めたプリンづくりをこだわり続けるうちに、お店を出していたというお母さんと

お話した。やり始めるととことんやってしまう性格で、全国からプリンや素材になるものを取り寄せ、試食・試作を重ねて世界一のプリンを目指していらっしゃるそうだ。

・カラオケ&ダンス

1室をお客さんみんなで共有して、カラオケをしながらダンスを楽しむスナック。初めて行く人は、人前で歌ったり踊ったりすることに勇気がいるはずだが、オーナーさんやオーナーさんの姪っ子さんは、むしろ新しいお客さんや若い人にどんどん広まって、初対面の人でもここに来れば仲良くなれる場にしたいという思いで営業していらっしゃるそうだ。私たちが取材に行った日は、常連のおじいちゃんおばあちゃんがとても生き生きと楽しんでいらっしゃって、私たちものせられて、歌って踊ってしまった。

・山科疎水沿いのお花をお手入れしているおじいちゃん

山科の皆さんのお散歩コースであり、観光名所にもなっている山科疎水沿いは、桜やコスモスなど、季節を感じる絶景が見られることで有名だ。私たちが歩いてみると、ちょうどお花をお手入れしているおじいちゃんに出会った。この日はコスモスのお手入れと、菜の花の季節に備えての土づくりの日だそうだ。近所に住んでいて、20年間毎日欠かさずお手入れに来ているというおじいちゃんは、植物にとっても詳しく、ものすごい量の知識を話してくださいました。今咲いているお花のお手入れだけでなく、次のシーズンのことまで考えて、土づくりから苗の準備、植え替えまですべて逆算して作業されていることに驚いた。当たり前のように見える景色でも、地域の方の力なしには見られないのだと思った。

・山科元気プロジェクト

「山科じかん」というフリーペーパーを制作しておられる。プロジェクトの代表の方は、ミュージシャン活動の傍らフリーペーパーの編集に取り組んでおられる。フリーペーパーの取材中に山科のお店同士が応援しあって紹介しあうところに地域の温かさを感じることに、ご自身のミュージシャン活動も地域の皆さんの応援で頑張れることなどを話してくださいました。

・八百屋さん

お客さんとおしゃべりが大好きな八百屋さん。スーパーマーケットもある中で、わざわざ自分のお店を選んで買い物に来てくれるお客さんがたくさんいることから、地域から愛してもらっていることを感じると話してくださいました。だからこそ、豊富で新鮮な品ぞろえや絶え間ないおしゃべりにも気合が入っていらっしゃった。

・お母さんのカフェ

バスケットチームでの取材で教えていただいたお店。「子育て中のお母さんもくつろげるカフェ、世代を超えて集まれる場所を作りたい」という夢をもった、ママ友3人で立ち上げたそうだ。主婦の腕を生かしたおいしいお料理だけでなく、手作りの小物の販売や親子で楽しめるハロウィンパーティーの企画、例えば生け花などお母さんたちが趣味を共有できるようなイベントの企画もされている。

●インタビュー結果から、山科について考察

すべてのインタビューを振り返ると、山科地域の人々の共通点が見えてくる。まずは、とにかく何事にも全力で、アツい人が多いということ。そして、それぞれの人が自分の好きなこと・得意なこと・夢などを持って活動しておられること。また、それぞれの得意分野が誰

かの役に立っていたり、好きなことを通して人とのつながりができていたり、夢を応援しあったりといったことを通して、距離が近くて気さくな地域の雰囲気ができているということだ。これが、「山科愛」という言葉に象徴されるような地域の団結力につながっている。しかし、山科の多くの人は、これを自覚せず自然と心豊かな暮らしをしている。また、元から山科に住んでいる人は自然に助け合って暮らしていらっしゃるが、就職や結婚などで初めて山科に来た人は、これについて行けなかったり逆に疎外感を感じたりしかねない。

ここから、やましなさんプロジェクトが山科のためにできることを考えた。1つは、このような山科の特徴を説明し、山科の人々に自覚してもらうこと。もう1つは、「山科愛」を持つ人と、まだ持たない人をつなぐことだ。

具体的には、山科の人の熱い気持ちと、得意分野や好きなことを生かした各々の取り組みやお店を情報として紹介する。そして、情報を受け取った人が、その人に会いに行ってみようと行動を起こすように仕掛ける。こうすることで、これまで山科にただ家のある場所として住んでいた人が地域のことを好きになれたり、何か困っていることがあった人が誰かの力を借りて少し楽になれたりするかもしれない。それだけでなく、「山科愛」をもって生活していた人も、それが誰かの役に立つことができると自覚することができれば、より一層イキイキと暮らすことができる。このように、「頼ってや」「頼ってもいいんだ」という双方の気持ちを引き出すことで、人と人とのつながりのきっかけを作ることをやましなさんプロジェクトではしようと考えた。

●フリーペーパーの制作

フリーペーパーは、きっかけづくりに重点をおいて制作した。まずは、「山科とはこういう地域である」ということを、「熱い地域」「助け合いの街」「つながりの大切さ」という3つのキーワードに絞ってわかりやすく解説した。こうすることで、山科をよく知る人、知らない人ともに「山科のいいところ」を自覚することができる。そして、実際に、山科の中で思いを持って活動されている取り組みやお店の情報をたくさん載せた。その取り組みに込められた思いをしっかりと紹介することで、読んだ人が行動を起こしたくなるように工夫した。また、住所・電話番号・営業時間などアクセスしやすい基本情報を載せ、しっかりと行動につながるようこだわった。裏面にはやましなマップや、私たちが山科散策中に感じた、ほっこりするエピソードを載せた。情報をしっかりと伝えることも大切だが、山科の一体感や、どこか懐かしさを感じる地域の雰囲気も感じられる内容やデザインにしたいという思いを反映した。そして、多くの人に手に取ってもらえるよう、オシャレでインパクトのある表紙、読みやすい文字サイズにもこだわった。

●反省点

今回のプロジェクトでの反省点はプロジェクト活動の達成度を測る指標が無かったことだ。フリーペーパーを配る枚数、取材にいく件数、SNSのフォロワーの獲得など、数値目標を決めるべきだった。この意見は成果報告後のフィードバックでも指摘された。

この中でもSNSのフォロワー獲得は特に意識してもよかったと思う。SNSでやましなさんプロジェクトという団体が山科の広報活動をしていると沢山の人が知ってもらうことで、フリーペーパーへの関心も高まると思ったからである。SNSは取材した内容のレポートに

なっていて、一件ずつ許可を取り投稿することが手間になってしまっていた。そのため、もっと気軽な情報を使って投稿する頻度を増やすべきだったのかもしれない。

●やましなさんプロジェクトの今後について

今後のやましなさんプロジェクトでは、同じように山科の広報活動が行われると思うが、同じフリーペーパーという媒体を使って行われるのかが分からない。私たちはフリーペーパーという手段を選択したが他に有効な手段があるのであれば他の手段を使ってもいいと思う。

もし、フリーペーパーを作るとなるのであれば、山科は地域に対してとても積極的な為、同じように「山科じかん」などのフリーペーパーも存在する。やましなさんプロジェクトの特徴は「学生が作っていること」「山科区外の第三者の目から山科を見れること」「毎回内容が変わること」だと考えている。その特徴を今回は全面に押し出してはいなかったが、次回の活動ではこの特徴を長所と捉えて利用していければいいと思う。

反省点でもあげたように SNS でのフォロワー獲得もしていければと思う。フリーペーパーでの限界を SNS で補っていければ良い。特に、今回は重視していなかった山科区外の人々。SNS は全世界に発信されるため、山科の魅力を山科外の人々に知ってもらう有効な手段になると思う。